

令和7年度 長崎日本大学高等学校 学校評価－教職員による自己評価表

学校教育の基本方針	日本精神を基調として広く世界に知識を求める日本大学の建学の精神を継承し、世界的視野をもって世界の平和に貢献できる人物の育成、ならびに地域の文化の振興と、青少年の健全育成に寄与する。
学校教育目標	「至誠・勤労・創造」の校訓を实践し、生徒が誠の心をもって意欲的に学習し、深い思考力、確かな判断力・柔軟な実践力を備え、豊かで品位ある人間性を身につけた活力溢れる若者を育成する。また、教職員が自らを高め、和を尊び、活気に満ちた本校独自の教育環境創りを目指す。
重点努力項目	教育目標具現化のため、共通理解と協働体制により教育実践に臨む。 ① 校訓を生かした人格教育の推進 ② 進路指導の充実と学力の向上 ③ 校訓実践による爽やかな校風の樹立 ④ 生徒会活動、部活動の発展と活性化 ⑤ 環境教育の推進と公共心の育成 ⑥ 国際教育を推進し、豊かな国際感覚の育成 ⑦ 教職員の資質能力向上と学校組織の活性化

評価項目	具体項目	目 標	項目番号	具体的方策	評価			成果と課題
					R7度	昨年度	増減	

I 学校経営 全職員による共通理念の形成および学校経営の参画に関する教育的成果の評価

(1) 学校教育目標	学校教育目標の具体化	建学の精神に即した目標を設定し、教職員間の共通理解のもとに、教育目標の具体化を図る。	1	校訓や「生徒が主役」の教育理念をふまえた学校教育目標を設定する。	3.7	3.7	→ 0	校長が年度最初の職員会議で掲げた理念・目標を共有できた。
			2	前年度の教育的課題を精査し、学校全体や生徒の実態を考慮した適切な教育目標を設定する。	3.6	3.6	→ 0	昨年度の教育活動を振り返り、適切な目標を設定して運営できた。
(2) 教育経営方針	教育経営方針の明確化とその実践	教育経営方針を学校内外に明確に示し、教職員間の相互理解と、保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	3	教職員が学校(校長)の教育方針を意識して、教育活動を展開する。	3.6	3.5	↑ 0.1	校長による方針説明の意図を汲み取り、教育活動を推進できた。
			4	教育目標や教育経営の方針について、生徒・保護者に理解を得る努力をする。	3.6	3.6	→ 0	紙面・配信等や対面の場面を活用して、学校の意図を説明できた。
(3) 各学科・コース経営	各学科・コース目標の具体化	学校教育目標に沿った、各学科・コースの目標に基づいて経営を行う。	5	学科・コースの特色を明確化し、教員・生徒・保護者への周知を図る。	3.5	3.5	→ 0	各コース・科の特色や長所を打ち出し、学校運営に反映できた。
			6	学科・コース別の会議を定期的に行い、指導上の課題を共有することに努める。	3.6	3.6	→ 0	定期的にコース会を開催し、適宜情報を共有しながら指導できた。
(4) 学級経営	学級目標の具体化	学校目標及び各学科・コースの目標に沿った学級づくりに努める。	7	学校目標や学科・コースの目標に沿って、学級経営を行う。	3.5	3.5	→ 0	各学級で全体方針を踏まえ、独自の目標と併行して運営できた。
			8	学級担任は学級生徒と個別面談を実施し、生徒個々の理解に努める。	3.6	3.7	↓ -0	面談時間を意図的に創出し、両担任が個々の状況把握に努めた。

評価項目	具体項目	目 標	項 目 番 号	具 体 的 方 策	評 価			成 果 と 課 題
					R7度	昨年度	増減	

Ⅱ 教育活動 教育活動全般における計画的・組織的な活動がもたらす教育的成果に関する評価

(1) 教育課程の編成	適切な教育課程の実施	学習指導要領の趣旨を生かしつつ、特色ある教育課程を編成・実施する。	9	学科・コースの特性を活かした教育課程を編成し、学習環境を提供する。	3.6	3.7	↓ -0	目標の異なるコース、専門科の特色を打ち出し学習を推進した。
(2) 教科指導	わかる授業の展開と工夫・改善	創意工夫がなされた学習指導を行う。	10	教科科目の年間指導計画を作成し、学習指導にあたる。	3.5	3.6	↓ -0	年度当初にシラバスを作成し、計画に基づいた指導を実施した。
			11	生徒による授業評価を実施し、教科担任はその結果をもとに授業内容や方法の工夫に努める。	3.5	3.6	↓ -0	昨年度の評価内容を各教員が確認・分析して、自身の指導に役立てた。
	教材の精選と教具の活用	生徒の実態に応じて教材を精選し、教具を適切に活用する。	12	教材の精選、教材の自作などをとおして、生徒の学習活動の支援や意欲の喚起に努める。	3.7	3.7	⇒ 0	ICT等も活用して、生徒の興味関心を高める教材開発に努めた。
	適切な学習評価	教職員の共通理解のもとに、適切な評価を行う。	13	教科担当間で評価基準について話し合い、共通理解に基づいて評価を行う。	3.5	3.6	↓ -0	教科会や担当者会の場面で、平等性を保つ適切な評価を相互確認した。
			14	定期考査においては教科で問題を十分に吟味し、到達目標に沿った作問ができているか精査する。	3.6	3.6	⇒ 0	横の連携で内容を精査した他、教科主任が問題を回収し確認している。
(3) 総合的な探究の時間	ねらいが明確で工夫を凝らした活動	学習指導要領のねらいをふまえて、地域や学校の特色を生かした活動を行う。	15	指導目標が明確な年間計画を作成し、目標の達成へ向けて教職員の協力体制を構築する。	3.5	3.6	↓ -0	各担当者が創意工夫している。方法や内容の継続検討は必要である。
(4) 特別活動	ホームルーム活動の充実	学校や各学科・コースの目標に沿った年間計画に基づき、活発な活動を行う。	16	学級担任は、学科・コースの方針に基づき、計画的にホームルーム活動を実践する。	3.6	3.6	⇒ 0	各学級で工夫を凝らし、時季や学級の現状を踏まえて実践できた。
	学校行事の充実	学校・生徒の実態に即した効果的な学校行事を計画し、その内容を工夫する。	17	生徒の主体的な運営により、生徒自身が達成感を味わいうる学校行事を実践する。	3.7	3.7	⇒ 0	生徒会執行部を中心に、能動的に課題を見つけて取組めた。
(5) 生徒指導	基本的な生活習慣の確立	的確な生徒理解に基づき、全職員で挨拶・マナー・礼儀などきめ細かな生徒指導を実践する。	18	定期的な容儀検査及び、前後の指導を全職員で徹底し、制服の着こなしに関する意識を喚起する。	3.2	3.4	↓ -0	各学期1回の検査に移行した。一定目線での平等な検査や指導に努めた。
			19	登下校指導を通じて挨拶運動を定着させるとともに、通学時のマナーや安全意識の向上を図る。	3.2	3.1	↑ 0.1	至誠推進部を中心に啓発を行った。マナーの継続指導が必要である。

評価項目	具体項目	目 標	項目番号	具体的方策	評価			成果と課題
					R7度	昨年度	増減	

II 教育活動 教育活動全般における計画的・組織的な活動がもたらす教育的成果に関する評価

(6) 進路指導	進路指導の充実	系統的・計画的な進路指導を実践する。	20	本校独自のキャリア教育を実施することにより、生徒各自の進路設計の明確化を図る。	3.6	3.6	⇒ 0	月に一回の頻度を確保し、効果的な学習機会として機能した。
			21	生徒個々の志望進路にあわせた進路説明会や、保護者に対しての情報提供に努める。	3.6	3.7	↓ -0	進路指導や学力分析について、必要な情報共有を図ることができた。
			22	各種試験の分析を、学年及びコース単位で行い、生徒個々の学力向上に努める。	3.5	3.4	↑ 0.1	成績の確認は試験毎に行われたが、内容や頻度は更に検討を要する。
(7) 教育相談	教育相談の充実	生徒のもつ悩みや、困難の解決を援助する。	23	カウンセリングマインドをもって生徒に接し、問題の早期発見・早期解決に努める。	3.6	3.6	↓ -0	対話や面談の場を意図的に設けて、生徒個々の内面理解に努めた。
(8) 生徒会活動	生徒会活動の充実	自主的な生徒会活動を支援する。	24	生徒会活動の機会を設定し、適切な支援を行う。	3.8	3.7	↑ 0.1	執行部の人数や活動が増え、教職員によるサポートも丁寧に行えた。
			25	生徒会活動の成果を、全校生徒で共有できるよう努める。	3.7	3.6	↑ 0.1	生徒会サイトが立ち上がるなど、活動の状況を適宜周知できた。
(9) 読書教育	読書教育の充実	読書の重要性について啓発し、豊かな感性と落ち着いた生活習慣を育成する。	26	オリエンテーション・読書週間・図書館報などとおして、読書に対する意識向上を図る。	3.4	3.3	↑ 0.1	読書週間や図書委員の活動以外に、意識向上の工夫を凝らしたい。
(10) 健康安全教育	健康や安全に対する態度の育成	健康・安全な生活を送るための指導を行う。	27	生徒の心身の健康について、保健体育科・養護教諭・担任間の連携を密にした指導に努める。	3.6	3.6	⇒ 0	日々の情報共有や日報の確認などにより生徒の実態把握に努めた。
(11) 人権同和教育	人権尊重に対する適切な価値観の育成	人権尊重に関する様々な課題を認識させ、解決のための実践力を身に付けさせる。	28	人権・同和について考えるための機会を設定する。	3.4	3.4	⇒ 0	担任や至誠推進部が啓蒙しているが意識高揚の施策を更に講じたい。
			29	教職員も生徒の学習機会に合わせて人権・同和について理解を深め、適切な指導に役立てる。	3.3	3.3	⇒ 0	教職員側の学びが不足との実感がある。有益な研修を企画したい。

評価項目	具体項目	目 標	項目番号	具体的方策	評価			成果と課題
					R7度	昨年度	増減	

II 教育活動 教育活動全般における計画的・組織的な活動がもたらす教育的成果に関する評価

(12) 部活動	部活動の活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う。	30	顧問・学級担任・教科担任との連絡を密にし、生徒の指導に関する共通理解を形成する。	3.6	3.6	↑ 0	担任から顧問、顧問から担任への声かけで多面的な指導が行われた。
			31	部活動をとおして、各生徒の能力を伸長させ、心身の充実を図るよう配慮した指導を行う。	3.7	3.6	↑ 0.1	部活動の活性化に努め、生徒の活動の幅を広げることができた。
(13) ボランティア活動	ボランティア活動の充実	ボランティア活動を通して、奉仕の心と郷土を愛する心を育成する。	32	校内のエコ活動・ボランティア活動を推進し、ボランティア活動への意識を高める。	3.7	3.6	↑ 0.1	ボランティアサークルが旗振り役となり福祉・奉仕活動が進んだ。
(14) 個別指導	個を生かす指導の充実	個に応じた指導の一環として、学習支援や各種資格取得を奨励する。	33	生徒の関心と適性に応じた検定試験の情報を適切に提供し、合格に向け指導する。	3.5	3.6	↓ -0	受検を希望する生徒に対し、適切な機会提供と指導が実践できた。
			34	学校生活に悩みを抱える生徒の早期発見に努め、関係教職員の連携によって生徒を支援する。	3.6	3.6	↑ 0	担任だけでなく、カウンセラーなども連携した対応を心掛けた。
(15) 集団指導	規律ある生徒集団の育成	個々の生徒が集団の一員としてとるべき適切な行動様式を理解し、自律的な言行をとることができる。	35	全校集会などの機会を利用して、集団の一員としてとるべき行動様式を指導する。	3.6	3.4	↑ 0.2	徐々に全校集会の頻度も増え、継続した集団指導を意識したい。
			36	リーダー研修会を開き、「生徒が主役」を牽引する生徒集団のリーダーを育成する。	3.4	3.4	↑ 0	コースごとに少しずつ取組が進展しており、更に進化させたい。
			37	校外に生徒集団を引率する機会に、全職員による集団指導の体制を確立する。	3.5	3.4	↑ 0.1	全校応援など、該当の場面が減少し機会を得られず残念であった。

評価項目	具体項目	目 標	項目番号	具体的方策	評価			成果と課題
					R7度	昨年度	増減	

Ⅲ 組織運営 教育活動の円滑化, 教師集団の共働性にかかわる教育的成果の評価

(1) 校務分掌	組織的な活動と運営	各自が自分の役割を把握し, 分担に応じて適切に校務を処理する。	38	分掌, 学科・コース, 教科など各部間の連携をとり円滑な組織運営に努める。	3.6	3.6	→ 0	分掌会、コース科会、教科会が定期的に行われ、情報共有が図られた。
(2) 各種委員会	目的に応じた適切な委員会設置	目的に沿って適切に委員会を設置し運営する。	39	学校運営に必要な諸会議を適宜開催し, 教育活動に反映させる。	3.6	3.6	→ 0	定例の会議が機能的に実施され、学校運営を進展させた。
(3) 校内研修	研修体制の確立と実践	計画的・組織的な研修の体制を整備し, 教職員の教育活動の質的向上を図る。	40	初任者研修や, 研究・公開授業といった研修の機会を設定する。	3.3	3.3	→ 0	校内の定期的な研修のほか、私学研修や自発的な研究授業も行った。
(4) 現職教育	教職員の資質向上へのとりくみ	教育センター等の研修に積極的に参加する。	41	教職員の研修参加を奨励し, 紀要などを活用した成果の共有を図る。	3.4	3.4	→ 0	各研修の情報共有を科会での周知や紀要への寄稿により行った。
(5) 私学活性化の為に目標設定・自己申告制度	学校活性化・自己申告制度	計画的, 組織的に学校活性化のために適切な活動をする。	42	デジタル採点など, 過去の「よかとこ推進プロジェクト」の蓄積を活かし教育の円滑化が図られている。	3.8	3.8	→ 0	校内に事業の成果が定着し、効果的な教育活動を推進している。

評価項目	具体項目	目 標	項目番号	具体的方策	評価			成果と課題
					R7度	昨年度	増減	

Ⅳ 教育環境 学校が置かれている条件や環境がもたらす教育的成果に関する評価

(1) 学校環境の整備	潤いのある生活環境の整備	日々の清掃を充実させ, 美化意識を高める。	43	全校生徒, 全教職員で積極的に清掃活動に取り組む。	3.3	3.2	↑ 0.1	生徒数・清掃箇所が多く、学校挙げての清掃活動には未だ課題が残る。
(2) 施設・整備の管理	活用と安全管理	施設・設備の有効な活用が図られ, 安全点検等の管理を適切に行う。	44	施設・設備の整備と有効活用に努め, 安全点検を定期的実施する。	3.7	3.5	↑ 0.2	定期的な点検を丁寧に実施し, 安心して安全な環境を維持保全できた。
(3) ITの活用	教育活動全般の情報化	パソコンを利用した校務処理を適切に行う。	45	よかdeskやNNGネットワークを有効に活用し, 効率的な学校運用を実現する。	3.7	3.7	→ 0	校務ICT化に対し意欲的に着手し有効な活用が進みつつある。
	ホームページの更新	学校ホームページを工夫して適切な情報公開を行う。	46	学校ホームページを充実させ, 学校に関する情報を適切に公開する。	3.5	3.8	↓ -0	諸活動の成果を発信する場面が多く、ホームページ以外の情報発信も盛んになった。

評価項目	具体項目	目 標	項 目 番 号	具 体 的 方 策	評 価			成 果 と 課 題
					R6度	昨年度	増減	

V 開かれた学校づくり

(1) 保護者との連携	協力体制の確立	生徒に関する情報を相互に交換する。	47	個々の生徒について、教職員と保護者が連携し、相互協力のもと指導にあたる。	3.6	3.6	⇒ 0	生徒ひとり一人に対して組織的に関わり良く連携できた。
	育成会活動の充実	育成会活動の活発化を図る。	48	教職員が育成会活動を理解し、保護者と協力して育成会活動の活性化に努める。	3.7	3.6	↑ 0.1	学級懇談会等の実施率も高まり、育成会との良い連携が見られた。
(2) 地域や関係機関との連携	協力体制の確立	学校に関する情報を適切に公開し、協力を求める。	49	中学校訪問を適宜に行い、学校の教育方針を周知し、相互の情報交換に努める。	3.7	3.7	⇒ 0	定期的な訪問で良い関係性を構築でき、生徒募集にも有益に作用した。
	学校間連携の充実	他校や異校種との必要に応じた効果的な連携を行う。	50	付属校としての特色を活かした施策を、日本大学及び付属校等と連携し、展開する。	3.7	3.7	⇒ 0	大学全体の紹介や学部学科の講義など、有意義な連携が深まった。